

ふるさとを愛する地域社会人の育成
～ 青少年ふるさと歴史ガイド講座の取組を通して ～
関ヶ原町教育委員会

1 はじめに

関ヶ原町は、町土の約80%が山林で豊かな自然に恵まれ、江戸時代には街道の宿場町として栄え、交通の要衝として発展してきた。現在でも、国道21号線、東海道本線、東海道新幹線、名神高速道路が町の東西を貫き、南北を国道365号線が通る等、交通の利便性の高い町である。また、関ヶ原町は、「壬申の乱」「関ヶ原合戦」といった二度の天下分け目の戦いの舞台となり、全国的に『せきがはら』の知名度は高く、“歴史のまち”と言っても過言ではない。一昨年の10月には、『岐阜関ヶ原古戦場記念館』がオープンし、多くの観光客が来館している。しかし、町人口は減少し続け、少子高齢化、過疎化が進み、町の活性化を図ることが大きな課題となっている。

2 取り組みに至る経過

「関ヶ原合戦」の史跡が多く残る本町では、古戦場の『町民総案内』プランの推進者を育成することが、本町の生涯学習の目的の一つとなっている。本プランに関わって、成人を対象とした生涯学習講座では、関ヶ原町や不破郡の歴史や関ヶ原町内の史跡等について学び、地域づくりや史跡ガイドの養成に生かしている。成人・子どもを対象とした講座では、今年度から新たに甲冑制作教室を開講した。子どもを対象とした講座では、歴史ガイドの体験講座を実施している。

地域住民や青少年がこれらの講座等で学んだり体験したりすることで、ふるさとのよさやふるさとの新しい一面を発見することができ、ふるさとを愛する地域社会人の育成につながる。そこで、「ふるさとを誇りに思い愛する青少年の育成」という社会教育の方針を受け、本テーマを『ふるさとを愛する地域社会人の育成』とし、サブテーマを、“歴史のまち（このまちまるごと古戦場）」ならではの、本町独自に取り組んでいる『青少年ふるさと歴史ガイド講座の取組を通して』とした。ふるさとを誇りに思い愛する青少年を育成することは、ふるさと教育を推進する学校の教育活動でも重視されており、さらにはふるさとを愛する多くの青少年の町内での就業や定住が進めば、人口減少の抑制や目指す町の活性化にもつながると考えたからである。

3 活動内容

青少年ふるさと歴史ガイド講座は、通常、小学4年生から高校生を対象に年間10回開催し、外国人観光客への英語ガイドをしたり、夏休みには、鹿児島県日置市から来町する小学校高学年～中学校2年生までの「関ヶ原戦跡踏破隊」（関ヶ原合戦での島津義弘公の薩摩までの退路をたどる体験）の陣跡のガイドをしたりしている。コロナ禍であるこの3年間は、例年のような活動ができないが、感染対策を徹底し、少しずつ従来の活動に戻つつある。

(1) 組織について

- ・ 設立：平成11年 【24年目 ※英語ガイドの取組は20年目】
- ・ 指導者3名
- ・ 講座受講総児童生徒数：延べ589名＜小学生179名、中学生240名、高校生170名＞
- ・ 令和4年度受講生：小学生5名、中学生11名、高校生0名 合計16名
- ・ 平成18年～平成30年の13年間は、大学生指導者もボランティアとして参加

(2) 活動の内容

本講座では、ふるさと関ヶ原を誇りに思い愛する子を育成するために、次のようなサイクルで体験活動を仕組んでいる。

- ① 開講式＜5月＞→1年間（10回の講座）の見通しを知り、活動計画を立てる。
- ② 学習会Ⅰ＜6月＞→過去の受講生が作成した町内の史跡を紹介する資料を活用して、



戦跡踏破隊ガイド体験

史跡の事前学習を行い、史跡の概略を理解する。その後、夏休み（8月初旬）の「関ヶ原戦跡踏破隊」へのガイドで、自分が案内したい史跡を決定し、自分がガイドする史跡について、さらに詳しく学習する。

- ③ ガイド練習Ⅰ＜7月＞→「関ヶ原戦跡踏破隊」へのガイド文を作成し、実際の場面を想定してガイド練習をする。また、ALTの協力を得て、関ヶ原駅前の東首塚での外国人への英語ガイドの練習も併せて行う。
- ④ ガイド体験Ⅰ＜8月初旬＞→島津義弘陣跡等で、「関ヶ原戦跡踏破隊」へのガイドを行う。

- ⑤ ガイド体験Ⅱ＜8月上旬＞→街角案内ボランティアガイドとして、8月上旬の1週間、関ヶ原駅前で大人のガイドと一緒に史跡を案内する。
 - ⑥ 学習会Ⅱ・ガイド練習Ⅱ＜9月＞→9月末の「関ヶ原陣跡制覇ウォーキング」での史跡ガイドの準備として、案内したい史跡を再度、決定し、事前学習・ガイド練習を行う。
 - ⑦ ガイド体験Ⅲ＜9月末＞→多くの観光客が来町する「関ヶ原陣跡制覇ウォーキング」で、自分が選択した史跡のガイドを行う。
 - ⑧ 学習会Ⅲ・ガイド練習Ⅲ＜10月＞→町内の低・中学年児童対象の史跡オリエンテーリング（11月中旬）での史跡ガイドの準備として、自分が案内したい史跡を再度、決定し、事前学習・ガイド練習を行う。
 - ⑨ ガイド体験Ⅳ＜11月中旬＞→史跡オリエンテーリングで、後輩児童に自分の言葉で分かりやすく説明したり史跡のクイズを出したりする。
 - ⑩ ガイド体験Ⅴ＜秋頃＞→地元の旅館に宿泊した外国人観光客に対して、関ヶ原駅前の史跡（東首塚）の英語によるガイドを行う。
 - ⑪ 閉講式＜12月＞→閉講式ではガイド体験の感想を交流する等、1年間の活動を振り返る。その後、現地見学会として近隣の市町の史跡や資料館を見学する。
- ◆上記のような体験の積み重ねが、受講生のふるさと関ヶ原への誇りと愛着となり、地元への貢献意識を高めることにつながっている。
 - ◆今年度は、8月初旬に「関ヶ原戦跡踏破隊」へのガイドや関ヶ原駅前で街角案内ボランティアガイドを行うことができた。



陣跡制覇ウォーキングガイド体験

4 成果と今後の課題

平成29年度の町民へのアンケート調査では、約7割の町民が町への愛着を感じており、今後のまちづくりの方向についても町民の約4割が「歴史のまち」と考えている。また、地元のよさを広めたい、地元へ貢献したいと考えているふるさと歴史ガイド講座を受講した青少年もいる。これらのことから、「歴史のまち」という本町の強みを生かした取組は、ふるさとを愛する地域社会人の育成に繋がっていると言える。

課題は、①本講座の成果をより明らかにするために、本講座の受講生の居住地をはじめ、まちづくり・就労において、受講生がどのように本町と関わっているかについて、追跡調査をしてまとめること、②町の広報誌等に本講座の活動や成果をより積極的に発信するとともに、より多くの青少年がまちのよさに気づくことができる体験活動を仕組むこと、③大人向けの歴史ガイド講座と本講座とのコラボレーションを図り、本講座の活動内容の質的向上を図ることの3点である。この3点を念頭に置き、今後の本講座の活動の改善を図ることで、ふるさと関ヶ原を思い愛する子どもを育てていきたい。